

# 日本文化協会報

(第四号)

発行所  
 日本ビルマ文化協会  
 大阪市南区長堀橋筋2-28  
 電 06-213-5858  
 発行兼編集人  
 小谷隆英・保科賢一

特別頒布  
 ビルマ地図 (250円)  
 ビルマ語会話集 (300円)  
 〒66円

申込先  
 大阪市南区長堀橋筋2-28  
 日本ビルマ文化協会  
 振替口座大阪310039  
 取引銀行 日本一 支店  
 三和銀行

## 協会派遣

### 訪緬団、任務達成、帰国す

協会訪緬団一行は去る一月七日伊丹空港出発。ビルマ、ランゲリン、バゲー、パガン、マンダレー、タウンデー、の各地を歴訪、文部省ニイニイ副大臣其他政府、要人並に鈴木日本国大使閣下に表敬訪問をした。

内地より持参のメルギー市大火罹災者お見舞品の贈呈、ニイニイ博士より協会への贈呈品の受授等あった。外各地の文化施設の視察、経済状況の調査等をし、大いに文化交流を通しての日緬親善の実をあげ、去る一月十七日全員無事帰国した。

尚、この訪緬団に参加の協会員氏名は次の通りである。

正木清、酒井栄一郎、稲垣清、甲谷秀太郎、馬淵祐一、梅原保、岡本健蔵、松山貫一、吉田弥三郎、土井次夫、桑原真一、大島武夫、大沢金司、栗林尚孝  
 細部の行動記録は次の通りである。

## 日緬文化協会親善訪緬団行動概要

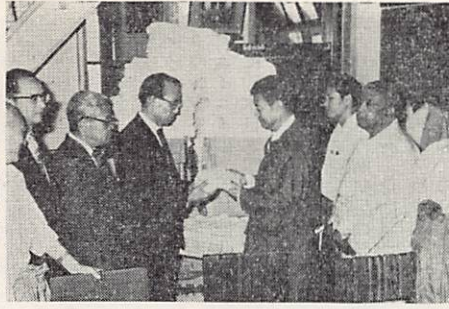
月日	時間	行 動 の 記 録
1月7日	10:00	大阪空港発。香港バンコック経由、17、25ランゲリン着。関係者、知人多数の歓迎を受け、ストランドホテルへ入る。
8日	9:00	農林副大臣(元万博政府代表)イェゴン氏の招待を受け、特設劇場にて独立記念祭の舞踊劇を見物した。
9日	00:00	バゲー方面の観光に出発(同員主力)14、00帰着。
10日	00:00	酒井代表幹事外農林副大臣イェゴン氏を訪ね万博以来のこと等懇談した。
12日	00:00	甲谷幹事他輸出公団を訪ね懇談し再会を約す。
13日	00:00	幹事団代表三名ビルマ文部省を訪ね副大臣ニイニイ博士と会見し約一時間懇談した。
14日	00:00	幹事団代表ランゲリン芸術学校訪問。校長先生以下の歓迎を受け生徒の特別演技等親しく見学し鉛筆等を贈った。
15日	00:00	ランゲリン日本人小学校訪問し、小菅副会長依頼の贈呈品を贈る。
18日	00:00	代表幹事酒井栄一郎氏夫妻ネ・ウイン首相を表敬訪問し、懇談した。
9日	8:00	パガンに向う、ウルシの学校々長ウ・テンエ氏案内にてウルシ製品等見学の後、バガン王朝の遺跡等見物。
9日	18:00	訪緬団の今後の行事打合せを行う。
10日	8:00	ニャンウー市場の商品調査、流通状況視察の後、マンダレーに向う。
10日	18:00	飛行機内にて、ビルマへ出張中の農林技師梶孝氏一家と会い協会との協力を約す。
14日	00:00	迎あり。マンダレー農大教授ウ・モンモンティン氏他、多数の出迎あり。
14日	14:00	サガイン・ヒルにて全員慰霊碑に詣て供物、千羽鶴、香華を捧げ、北ビルマの英霊に心から回向を行う。アマラプラ織物工場、マンダレー市場、アラカン寺院等見物。
17日	00:00	一部の人達はミンゲ渡河点を訪ね慰霊を行う。
17日	00:00	ウ・バハン氏の厚意により夕食時堅琴の特別演奏あり。

11日	20:00	マンダレー州長官(元駐日大使)ウ・トン・シェン氏来訪され、酒井代表幹事他と懇談さる。
11日	9:50	マンダレー市内、市場、ゴダの丘、博物館等見物。訪緬団を二分し、半部はタウンデーホテル宿泊、翌日インレ湖及戦時中正不会長が開発された温泉療養所跡を訪ねた。
12日	17:00	半分はヘーホ定期列車へ帰る。(この時飛行場では遅れた我々のため定期便が三〇分待たせてくれた)
12日	11:00	幹事団オンサン廟へ参拝した後、
12日	10:00	駐ビルマ大使鈴木孝閣下表敬訪問、一時間半文化協会の使命等につき会談すると共に、豆類の対日輸出関税引下げ協力等を要請、鈴木大使より日緬両国の関係、その他の情勢につき御高話を拝聴した。
12日	12:30	ウ・マウテン氏のお世話でオンサン未亡人を訪ね表敬の後、昼食等を戴き欲待された。
12日	14:00	医師松山、土井両先生他二名は、ビルマ造船所技師ウ・ゾウ・ウイン氏の案内にて市内見物の後、国立老人ホームを訪ね、慰問すると共にその施設を見学した。
13日	18:00	學術調査団生野先生連絡のため来訪さる。
13日	19:00	タウンジー宿泊の人達ランゲリンへ帰る。
13日	10:00	酒井氏万博関係者ビルマ万博担当者に招待さる。
13日	9:00	甲谷幹事輸出公団支配人と副支配人と会い、ビルマより日本向輸出可能品の検討(①自転車、チェン②竹③肥
13日	10:00	料、骨粉等)について意見の交換を行い、協会が将来ビルマ発展協力のため行える経済交流資料の収集に努める。
13日	13:00	タモエ日本人墓地の慰霊碑に、供物及香華、千羽鶴を捧げ、訪緬団全員回向を行い、全ビルマの英霊を弔う。
13日	15:00	幹事団代表メルギー県人会を訪ね、ビルマ赤十字立会いの火災見舞として協会よりタオル二、〇〇〇枚を贈り、大変感謝された。
13日	16:00	正木会長鈴木大使を訪問し、会談した。
13日	19:00	元日本留學生の諸君を招き懇親レセプションを行う。文部大臣代理を始め、新聞記者及留學生等二、〇数人の参加あり。
13日	16:00	協会の正木会長よりビルマ文部省へ鉛筆一六、〇〇〇本、ノート一六、〇〇〇冊の贈呈式を行い、ビルマ文部省より協会へ銀製容器(ペーラー)を贈呈された後、乾盃!!懇親会に入り、大変有意義な一夕を過ごした。
14日	8:00	ランゲリン発、機長キャプテン、ラット氏の厚意により、会長等フアンストクラスの席に招待され、懐かしいビルマに別れてタイ国に入る。
14日	14:00	チェンマイにて慰霊碑に参拝した後、宿泊。
15日	9:30	チェンマイ発バンコックに向う。タイ国在任饒三氏(元森司令部勤務)文化協会の趣意に賛同入会、金二万円寄贈さる。
16日	14:50	香港着。当地駐在ビルマ総領事、ウ・レイイモン夫妻が出迎えられた。
17日	15:40	香港発、19、00無事大阪に帰着し解散した。



ビルマ新聞記事要旨

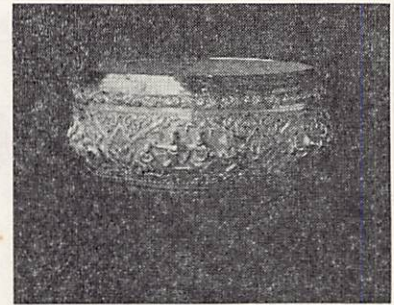
一月七日、ビルマへ到着した日本ビルマ文化協会の文化調査団の一行は、西ラングーン、レイダンド、六八にあるベイ(メルギーのこと)市会館を訪れ、同協会の会長、ドクター正木の代理として正会員の酒井栄一郎氏はベイ市大火の罹災者の見舞品として二〇〇〇枚のタオルをベイ市長ウ・コーサイを通じて同市民に贈呈した。



尚、同協会の文化調査団はバガン、ニャンウー、タウンデー等の都市を視察した上で一月十四日に日本へ帰国予定。

ニイニイ博士より  
協会に感謝をこめて  
銀器のプレゼント

協会派遣、訪緬団を通じ、当協会宛に次の様なメッセージと共に



「銀器」(ビルマ語で、パーラー写真参照)の贈呈があった。

会長並会員の皆様  
メッセーシ

私は一九七三年一月十二日貴協会主催のレセプションにお招きをうけましたが、急に重要な公務を帯びて旅行せねばならなくなり、出席出来なくなりまして非常に残念ですが、どうぞお許し下さい。実は出席した時にお渡しするつもりで準備いたしてありました。この銀器をお届けいたしますから、協会を代表してお受取り下さい。

この銀器はビルマではこの中に水と花だけを入れて使います。花は香高く美しいという意味を表わし、水は静かで豊かで浄らかであるということを意味いたします。水というものは切っても切り尽せません。たとえ切っても再び元の状態に戻ります。日本とビルマとの友好関係はこの水の様に永久に豊かて且和やかに

であり、どんなにしても両者を分離することは出来ない、という意味を含めてこの品物を贈呈させていただきます。

今度は日本ビルマ文化協会はビルマ文盲一掃運動やその他の教育事業に有益なご援助をしていただき誠に感謝に耐えませんが、茲に厚くお礼申し上げます。

皆様方は上ビルマ地方へもご旅行なさる相ですが、この旅行が是非共平穩無事でありませう様お祈りし、来年もまたどしどしお越し下さいませうことを望みます。

最後に皆様のご健康とご幸福を祈りまして失礼いたします。

ビルマ文部省 副大臣  
ニイニイ博士

パカンの末裔

鈴木 孝  
(駐ビルマ大使)

日本が北条時宗を中心に団結した、鎌倉武士の果敢なる反撃と神風の奇蹟で、蒙古の襲来を博多湾頭でくいとめたのとちょうど同じ時代、絢爛たる仏教文化を誇ったビルマのパガン王朝は、同じフビライ・カン軍のたびたびの襲来に抗し切れず、滅亡の道を通った。

パガン王朝を亡ぼした蒙古の軍隊は、ビルマの地には長く留まらず、本国へ引き揚げていったが、それは彼らが中部ビルマの暑さと、湿気と猛烈なモンズーンの辟易したうえに、ビルマ民族の執拗なゲリラ反攻を恐れたためだといわれている。日本の場合、もし蒙

古軍が上陸に成功していたらどうなっただろうか。温暖な日本の氣候を好んで彼らは居坐っただろうと思われる。

問題は日本民族が、ビルマ民族のように蒙古の進駐軍にゲリラの脅威を与え、彼らを海の彼方へ退却させ得たかどうかである。仮定の問題ながら考えさせられる。

ところで、それから七百年後の第二次大戦中、日本の軍隊はビルマを侵略し二年間占領した。歴史の皮肉というべきだろう。もっともこの侵略は、かつての蒙古軍とは違ってビルマ民族征服が目的ではなく、いわゆる援將ルートの遮断と、インド解放のために、ビルマにおけるイギリスの勢力一掃することをめざしていた。

そしてその過程において、日本軍の有志はビルマ独立のためのビルマ人軍隊の育成すら図ったわけで、これらの有志たちは、ビルマを真に愛したと思う。しかし、日本軍がビルマを戦場化した、ビルマ国民に大きな犠牲を強いたことは否めない。

特に、悪名高い日本の憲兵隊は、敗戦が近づくとつれて猜疑心と残忍性を深め、多くの無辜のビルマ人を捕え、拷問にかけ、そして殺した。この非道が、「イギリス帝国主義の圧制からの解放者」としての日本軍に期待し、歓迎したビルマ国民を、戦争末期、抗日運動に追いやった最大の原因である。これはヤ・ウイン首相自身

が、私の質問に答えたところだ。今でも「ケンペイタイ」という言

葉は、中年以上のビルマ国民に恐怖と嫌悪の念とともに記憶されている。

ところが、このような不幸な過去にもかかわらず、現在のビルマの政府も、大変親目的なのである。それは「ケンペイタイ」が日本人のくく一部を極端の中に過ぎなかつたこと。日本軍の中に誠心誠意ビルマ独立育成に努めた有志がいたこと。いずれにしても日本がビルマ人を敵にして攻めてきたのではないこと、などが改めて認識されたせいもあるが、やはりビルマ人が「恩讐の彼方へ」人間の罪を赦す、寛容な国民性を持っているためであろう。

旧日本の影響は今でも大きく残っている。良い意味で残っている。といつてもよい。小さなことだが、たとえばビルマ軍は旧日本軍式の飯盒は、ビルマ政府が対外国調達原則としている国際入札制で購入しているのだが、旧日本軍式の飯盒は日本でしか造れないから、国際入札に抵触し、かつ落札するのは日本の業者にきまつている。味のある話である。

飯盒ばかりではない。旧日本軍の「歩兵操典」はビルマ語に翻訳され、今日ビルマ軍人必携のガイドブックになっている。これは終戦当時、神奈川県座間の陸軍士官学校に留学していたビルマの優秀な青年たちが、連合軍の捕虜となつて母国に送還されたとき秘かにポケットに忍ばせて持ち帰ったものを、戦後ビルマが改めてイギリスから独立するのに備えて翻訳し



たものである。

ビルマ軍の用語に「セイシン」というのがある。これは「軍人精神」という意味で、兵士たちは上官から「セイシン！」と怒鳴られると、たちまち真立不動の姿勢をとるのである。また、例の「一ツ、軍人は忠節を尽すを……」で始まる軍人勸諭の一節は、今でもビルマの軍人たちに記憶されていてこちらが辞易するほどの鮮やかな暗語ふりを示す。

去年八月初めのある日、日本とビルマの間に経済協力に関する新たな協定が成立し、私は日本政府代表としてこれに調印した。調印式後、私たち大使館員とビルマ側外務大臣ほか関係の副大臣たちが欲談した際のことである。「戦争に敗れ、アメリカに占領された日本が、今やアメリカを凌ぐとする経済的実力国になったのを見て、我々ビルマ人は欣懐の至りです」との外務大臣の言葉に「お言葉に感謝するが、半面、日本には物質主義や、マイホーム主義という利己主義がはびこって、日本の良い伝統が失われていくのが心配です」と私が答えたところ、そばの副大臣が笑顔で「ヤマトダマシイハ、ワレワレビルマジンガモツテイテアゲマス」と言い放つたのには愕然として返す言葉もなかった。

しかし、日本のかつての「軍国主義」がビルマに残っているというものは誤りである。敢て残されたものがあるとすれば善きにつけ悪しきにつけ、旧日本軍の行動が刺

激した、ビルマ人の愛国心であろう。蒙古の襲来を防ぐことができた日本人の子孫と、同時代にそれを防ぐことができなかったバガンの末裔と、果してどちらの愛国心が強いだろうか。私は考えさせられる。  
(文芸春秋 昭和四十七年六月特別号より)

協会員 岩内健二氏

(東海支部所属)

NHKテレビに出演!!  
協会文化活動の一端を紹介!!

NHK総合テレビには、毎日曜日の午後一時五分より三十分間放映されている「中学生日記」と題する番組がありますが、去る一月七日、世界の中学生の日常生活、勉学についてという「テーマ」のもとに、英国、中学生の実情を熟知している人達が集まって、日本の中学生を交えてそれぞれの実情を説明するという座談会が持たれました。その席上、ビルマの中学生について当協会員の岩内健二氏(名古屋市在住、市立緑高校教師、元ラングーン日本人学校教師)より、次のような説明がスライドを交えながらありました。  
「ビルマはアジアの典型的な農業国、仏教国です。教育の面については、まだ義務教育実施さ

生徒も中学校を出ればいろいろな職業につける道が開けてくること、ひいてはビルマの社会主義国家建設のために立派な社会人となるように、という点において、政府も国民も教育にはずいぶん力を入れていてる国であります。しかしながらそういう意欲の割には、学校の設備とか、教材や教具類はまだ不十分だとも思います。例えばこんな話がありましたよ。日本ビルマ文化交流協会——これは両国の文化交流、相互理解を通して親善友好を深めようとする意図のもとに生まれた民間の友好団体ですが、この会の代表者が昨年ビルマ政府の招きでビルマを訪れました。そして各地で暖かい歓迎・御礼を受けまして、帰途、お礼に何かお返しをしたいと申し出ましたところ、ビルマの文部副大臣ニイ・ニイ博士が次のように言われました。つまり「ビルマは現在、文盲一掃運動を展開している。ところが辺地の学校とか、学校のない村には、家事とか家の農作業のために学校へ行かない子供がたくさんいる。そういっ子供に、読み書きを教えるために、大学生が休暇を利用して交代で行っている。その際、勉強は当然夜しか出来ないが電燈もない所が多いので、そのための石油ランプを送ってくれないか。」ということでした。どんな田舎へ行って電燈があり、立派な学校の建っている日本の環境と比べて、ずいぶん事情が違うのではないかと思います。」

また出席の一中学生の質問に答えて、  
「ビルマの中学校にも制服というものはあります。あちらではロンジーという長いスカートのような腰布を男女共まじっておりますが、そのロンジーの柄とか色によって制服を決めております。日本の中学校の黒っぽい地味な制服に比べて、緑色とかこげ茶色とか、なかなかカラフルな、民族衣裳を生かした制服です。」という説明がありました。  
出席した中学生の質問は、米國とか英國のようなよく知られた国にもつばら集中しましたが、このルマの機会に日本若い中学生にビルマの紹介、文化協会の宣伝をすることが出来て、岩内氏も喜んでおりました。なおこのテレビ出演に際し、事実確認、資料準備のために当協会副会長の小菅信一氏が名古屋在住のビルマ人留学生、研修生を呼んで、岩内氏やNHK制作担当者と打ち合わせる機会を持つよう便宜を取り計らわれたことも、蔭の力として付記しておきます。

会員通信

一人が一人の輪を

昨年十一月復員以来の念願でありました。ビルマ戦跡慰霊の旅を果たし、無事に帰国してから既に一年の歳月を閲しました。  
ビルマの山野は且ての戦塵を忘れたかのように鎮まり、平和境となつていますが、わたくしたちの戦友は今も尚異国の地に、望郷の念を抱きつつけて、帰還の日を待ちわびています。この声に答えて一日も早く遺骨収集を実現しなければならぬのが、生存者に課せられた任務であることを自覚しました。

しかし、この遺骨収集は日緬両国間の外交ルートにのせなければ到底その実現は期せられません。真に難中の難事でありませぬ。このような観点から「日本ビルマ文化

持別寄附芳名

- 稲垣 清 一〇,〇〇〇
- 針本 英和 六,〇〇〇
- 内田 健 二〇,〇〇〇
- 水口 憲夫 五,九〇〇
- 中財 大雄 五,九〇〇
- 窪水慶治郎 五,〇〇〇
- 清水慶治郎 五,〇〇〇
- 世木 宗一郎 五,〇〇〇
- 押切 勝蔵 四,〇〇〇

- 福井 守一 二五〇
- 南干 鶴井 九〇〇
- 鏡 三 二〇,〇〇〇
- 大谷 国夫 五,九〇〇
- 竹内 悠樹 一,〇〇〇
- 河崎 茂 九〇〇
- 下村 博美 一,〇〇〇
- 光野 昭 一,五〇〇
- 池田 正 一,〇〇〇
- 河本 幸喜 九,五〇〇
- 橋本志都子 二,〇〇〇
- 西脇美之助 三,六〇〇
- 中西美知男 一,〇〇〇
- 中西 文敏 一,〇〇〇
- 湯畑 信子 三,〇〇〇
- 栗田 敏夫 八,〇〇〇

協会」の設立を見ましたことは、  
 兩國間の文化交流と親善を通じて  
 懸案の諸問題を国際的なベースに  
 於て解決しようとするものであり、  
 国民外交として最も適切な運動  
 でありますことはいまでもなく、  
 まことに喜びに堪えません。

わたくしたちは、戦友精神の原  
 点に帰って、この事業の趣旨に賛  
 同し、一致団結して「日本ビルマ  
 文化協会」を支援して、所期の目  
 的が達成を見ますよう、惜しみな  
 い協力をしたいと思います。偏に  
 よろしくおねがいを申しあげます  
 と共に、  
 「一人が一人を誘う運動」を提  
 唱します。

昭和四十七年十二月  
 明妙会連絡所  
 山口 諦存

自己紹介

王子田孝志  
 南国。鹿児島県指宿市出身。四  
 十八才。

昭和十八年徴集、第五航空軍、  
 第九戦隊艦隊隊所屬、中国大陸、  
 満洲、朝鮮、各地従軍。  
 昭和二十一年十二月復員。現在  
 丸王運輸、望玄ビル代表取締役。  
 兄は昭和十七年三月「ビルマ」進  
 攻作戦に於てトング市東北アレミ  
 ヤン高地の戦いに於て散華、  
 昭和四十五年十一月、福岡県遺  
 族会より永年の悲願であった「ビ  
 ルマ」に渡り各戦跡巡拝及び兄の  
 戦死の地を訪れ、慰霊墓標を建立  
 する。  
 今後各方面を通じ「ビルマ」に

於ける旧日本兵未帰還者の救出、  
 遺骨収集のそく進及び慰霊、「ビ  
 ルマ」への親善協力に微力をつく  
 し度し。何も能なしたが若さと情  
 熱だけが取り得、御指導と御交誼  
 を願う。日本ビルマ文化協会の御  
 発展と会員諸氏の御健斗を祈る。

山田 正次

満四年余第十五軍々医部員とし  
 てビルマ各地に転戦、終戦後厚生  
 省、結核予防会等を経て現在主と  
 して血清学的診断液の製造会社を  
 経営しています。今度ビルマ、留學  
 生の我國医育機関での留學、研修  
 に力をかしたいと思つています。

井村 光三

大正八年七月、大和高田市に生  
 る。  
 昭和十四年十二月より終戦迄兵  
 隊、中支、ビルマ及びインパル  
 作戦に参加。  
 昭和二十一年復員同十月、井村  
 家に入り、現在株式会社イムラ封  
 筒取締役社長。

地区ライオンズクラブ会長、県  
 立諏訪高校PTA会長等を歴任、  
 現在、全国紙製品工業協同組合理  
 事、倭印刷協同組合理事、全国  
 荷札協会理事、岡西荷札同友会会  
 長、国民協会奈良県支部常任理  
 事、大和高田経済倶楽部副会長、  
 新庄町社会教育委員、日本ボーイ  
 スカウト奈良県連北葛第二団育成  
 会長、美加の原カントリークラブ  
 理事等。

徳 三  
 タイ国バンコックでT、V、旅

行社ツアーマネージャーとして日  
 本人の方のお世話をしていますか  
 ら、協会員でバンコックにお出の  
 方はどうぞ御連絡下さい。  
 協会々員でビルマ方面軍司令部  
 副官部におられた名古屋の矢野さ  
 んや京都の梅原さんとは古い縁に  
 つながる者です。

日緬文化協会の趣旨には大賛成  
 で早速入会させて頂いたいただきま  
 した。今後お役にたつことがあれば  
 は是非協力させて頂きたい。  
 この協会のような純粋な趣旨  
 の民間人の会がタイ国にもあつた  
 ら、現在のように日泰間にある不  
 幸な問題は起きていなかつたのに  
 と残念に思っています。

故郷の台湾にも会員がある由で  
 すが今後更に増えることを切望し  
 ますと共に、親切だったビルマの  
 人達と更に深いいきすが出来、国  
 民外交の実がががることを祈りま  
 す。

留學生を年末年始に日本の  
 家庭に招待!!  
 (関東支部)

現在関東地方には十八名のビル  
 マ留學、研修生が居るが、関東支  
 部ではかねてより栗原栄一、坂田  
 泰氏等が計画し、留學生諸君を年  
 末、年始休暇時、協会員各家庭に  
 招待して、日本独自の家庭のフン  
 イキを体験していただくことに依  
 り、日緬親善の基盤育成を計る目  
 的を以て其の篤志協会員の協力を  
 呼びかけていたが遂に、昨年末よ  
 り 兄玉清、片岡賢太郎、山里将  
 一、猪股重美、山口義春、宮内速

雄、田所雄吉、長浜善弥、本多宇  
 喜久郎、栗原栄一等の諸氏の献身  
 的協力で依り留學生を数グルーブ  
 に分け十二月二十九日より一月七  
 日の間、適当に区分し、夫々の家  
 庭に招待し、いろいろな心こもる  
 接待をし、日本の正月気分を満喫  
 していただいた。

日本の正月

HTIN AUNG  
 (ティンアウン)

一九七三年の新年は、私が日本  
 に留學して二度目ですが、関東支  
 部運営委員会のお骨折りで、年  
 末、年始の休日に本会会員の有志  
 の方々の家庭に招待されて、日本  
 の正月の気分を、大ぜいの留學生  
 と共に満喫できたことは、貴重な  
 経験の思い出として、ビルマに帰  
 って生涯も忘れることはないでし  
 ょう。又、この諸準備をして下さ  
 った栗原さんや、招待して下さい  
 た各家庭の御親切を大へん感謝し  
 ています。

和やかな各家庭に於て、特に興  
 味のあつたことについて書いてみ  
 ます。  
 モチ ビルマ、特にシャン高原  
 には、カンフニンサン(もち)め  
 で日本と同じようなモチがあり、  
 吾々はこれを焼いて塩と油をつけ  
 て喰べています。特にモチスー

(そくに)は大へんおいしいと思  
 います。  
 おせち 非常に合理的(きれ  
 いで栄養のバランスもよい)なたべ  
 ものであると思います。  
 おどそ これも始めてのみまし  
 た。はじめ、においがあつてのみ  
 においのことを聞いていたら長寿の薬  
 草のためとききました。それなら  
 ばいつもおどそを飲むと良いと思  
 います。

お酒 日本酒は他の洋酒よりお  
 いいと思います。ホットでもコ  
 ールドでも。  
 ウニ、イクラ、カズノコ これ  
 らもみなはじめてでしたが、大へ  
 んおいしいと思ひました。最近  
 は非常に高価であるとききました。  
 おでん 日本の寒い冬のためも  
 のとしては最適であると思ひまし  
 た。  
 (駒場留學生会館、固体物理専  
 攻、東大、モッコク生れ)

留學生宿舎めぐり

関東支部 栗原栄一

本年一月一日現在、留學研修生  
 は合計三十七名在留している。そ  
 の内の十八名が関東地区で東京に  
 は駒場留學生会館五名、東京国際  
 研修センター(市ヶ谷)四名、そ  
 の他各一で計十三名が散在してい  
 る。  
 今日のは先づ駒場留學生会館(波  
 谷より井の頭線、東大前下車)を  
 訪ねます。  
 駅から五分ぐらいの線路際にA

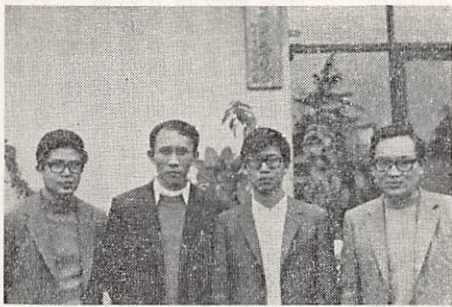


棟(男子) B棟(女子)の二棟の鉄筋コンクリート三階建の宿舎が緑の木立やテニスコートを中に建っている。食堂はA棟入口の右側にテラスを配し、カラーテレビやコーラ、ジュースの自動販売機のある、広い部屋で食事時間は女子もここで一諸に食事をする。

A棟にはティン・アウン (366号)、ティン・トー(367号)、カイン・ニユン(322号)、トン・シユエ(30号)の四名が各階に、B棟にはミン・ミン・セインが二階に起居している。

中廊下の両側に各個室があり両端に浴室、便所、炊事場がある。各個室は三坪前後で、ベッド、机、戸棚が備えつけてある。冬のステーム暖房が、夏の冷房装置はない。壁や戸棚にはビルマのカレンダーやバゴダの写真の間にヌードのピンアップもある。部屋に帰ると皆ロンジーにはき替えてくつろいでいる。電気のコセントで湯を沸かしコーヒーやお茶を飲んだり、食堂からコーラ、ジュースを買ってきたりする。夜遅くまで勉強してお腹が空いてくるとインスタントラーメンでカウスエ(ビルマ式そば料理)で腹ごしらえをする。時には京都や名古屋の留学生が上京して各部屋に泊って行く。大使館員の宿舎を訪ねるので、時々学校での勉強はかきついたらしく、特に先生が黒板に字を書くとき略字を書かれるには閉口にする

らしい。そう云うハンディがあるから、日本人学生より余計な骨折りがあろう。皆よく勉強している。余り外にも外出しない。文化協会各員の来訪を歓迎する由。電話は、宿舎内アナウンスで廊下にある各階の電話で取次られる。但し、日曜と夜八時以後はできない。訪ねるだけでなく、各会員家庭のバスディパーティ等には是非招待していただくようお願いします。(次回は東京国際研修センターの予定)



東京留学生の近影

東京目黒、駒場留学生会館にて

左から  
ウ・ティン・アウン  
ウ・トン・シュエ  
ウ・ティン・ト  
ウ・カイン・ニユン

日緬文化協会親善訪緬団に参加して

東海支部 土井次夫

今度日本文化協会の第一回親善訪緬団に参加させて頂き、三十年前ビルマ人と協力して英・支両軍に對し、一命を捧げて戦った一生忘るることの出来ない、懐しいビルマに再び訪れることが出来て、私はこんな嬉しいことはありませんでした。私共が両国民の親善に尽した七日間の詳細については、僅かな紙面に述べることが出来ませんので、その中の一事だけ申し上げることに致します。ビルマを立つ前夜一月十三日の晩、日本へ来たことのあるビルマ人をストランドホテルに招待してレセプションをした時、私共に挨拶されたビルマのアウン・キヤウさんが医師であることが分り、ザウウインさんに紹介して貰いましたら、私共のテーブルの松山先生と私の間に坐られ、互に色々時局など語り合いました。彼は七年間東大医学部に学び、清水外科で脳外科を専攻され、医学博士を貰い、其後又、英国のスコットランドで二年間学んだ秀才で、日本語は実に違者です。

(1)彼は言います。ビルマ人は大部分農業を仕事としていて而も非常に貧困であるのでどうしても、非社会主義政策をとらぬと統一出来ないと。

(2)日本人は実に勤勉でよく働き又、日本人は何んでも出来ないことは無い。而し、今英国の若い

人達は国家的意識が薄く、ただ、自分のことのみ考えて、必要以上に働かない。若し日本が今より更に、経済的に豊かになった時、今の英国の若い人の様になつてはいけないかと忠告して呉れましたが、私は日本の今の若人は、私共の若かった時の考と全く、反対であなたの言われた通りですので、将来気をつけねばならぬと思つてゐると答えました。

(3)次に私の胸につけてゐる日緬文化協会のバチを見て、これは何んであるかと尋ねましたので、これは日本人がビルマ人と永久に交友関係を続けると言う意味で、無限大の印をつけたと申しましたら、ビルマでも、この様な会を作らねばならぬと言いましたので、私が日本のこの協会と一緒にしたらどうかと申しましたら、彼はこれはどうしてもビルマにも作らなければならぬと実に頼もしいことを言うていました。

(4)彼は言うそれでは医療殊に、電気機械に協力して貰えるかと私は速答に困り、酒井さんに話し、これは今協会に資金が十分ないので、追々御意志に添う様になると答え、心電計など、携帯用なれば二、三拾万で買ふことが出来ると申しました。

(5)彼は日本には脳外科専門達は沢山居るが、ビルマには三人しか居ないと言っていました。此の次、日本で国際脳外科学会があるから、日本へ行く様な口振りでしたので、是非日本へ来たら、松山先生や私の家へ来て下さいと申上

げました。

(6)私はビルマの衛生状況が知りたいので、厚生省の衛生年報でもあつたら送つて貰いたいと依頼しました。

(7)一月十四日ミンガラドン空港へ見送りに行くと言いましたが、来ていたかも知れませんが、私は空港売店で買物して居りまして、お目に掛れなかつたが、帽子を見送りのビルマ人に何回も振り廻しました。ビルマ人よ御元気で、又来る日までと言う意味で。

親善訪緬団の一員として

甲谷 秀太郎

(一)ビルマの人達  
ビルマと聞くと、先づ私の青春時代の一時期が其処に埋れていることを思う。  
其処には戦友として苦楽を共にした、心の友達が今も尚眠っている場所もある。

戦後初めてビルマを訪れたのは、全国戦友会連合会の慰霊団副団長として、昭和四十五年一月に訪緬した時であるが、ビルマ側には鎮国の名残があり、其の上我々の準備不足もあつて誠に苦しい旅行であつた。

二年後、日本印緬戦跡慰霊団副団長として、訪緬した時には、其後知り合った多くのビルマの友人達の、友情溢れる協力を依り、前回と異つた慰霊旅行を経験した。そして今回の親善旅行では、国内旅行の様な気軽な、楽しい旅行を味わうことが出来た。



これは旅行を通じて接触したビルマの人達が折りにふれ、ビルマを教えてくれた為で、旅行を重ねるに従って、此の国の魅力が鮮明となり、ビルマ風情に陥ちてい

近々三年の間に、私の知ったビルマ人は、相当な数に登っているが、其の全ては日本人から共通して感じるのには、日本には戦前に存在した東洋独特の、深い心の交流である。彼等とは顔も骨格も似ているから第一印象は近親感があり、次いで交際が進むと、明治の日本人に接している様な良い意味での郷愁を感じる。彼等は自然に安住した生活をして居り、人間の本質が保たれているために、私を引きつけるのかも知れない。

最初のビルマ旅行が終って帰路、団員の一人が「明日から又汚れた日本に戻るのか」と嘆いたものだが、日本にないものを感じての溜息であった。

(二)ビルマの経済事情

ビルマは貧しいと、訪緬した人は感じずとも知れないが、私はそうは思わない。之は思考の基準を何処に置くに依り異なるものと思う。

オンサン夫人を訪問する毎に、豊かな食卓で歓迎して頂くが、此の食卓の上にある多種多様の御馳走は、全て彼女の自宅の庭から集められ、料理されたものである。門を辞す時は、必ず、庭に咲いている香り高い蘭の花がプレゼントされる。誠に心暖る交際である。

日本人がテレビや自動車のある生活が、豊かであると考えることが正しければ、我々ももつと心豊かになる筈である。新聞には子供を棄てたり、親を殺したり等々、心の貧しい人達を創り、不必要な物資の波に生活を脅かされているのが実情である。

日本では、土地から得られる資源は掘り尽されても絶対量の不足から対外依存度は年々大きくなり、外国の助けがなければ国民の生活を維持することは難かしい。之にひきかえ、ビルマには、未だ地下地上に眠る資源は、国の形態を変えない限り、無尽蔵と云えるほど人々を養い保る豊かさがある。

資源の乏しい日本は、生きながらに、自転車操業的な繁栄に突進しているが、豊かなビルマでは其の必要が無かったと云えよう。

近代国家の形態が、重工業や化学工業を具備することが条件とするならばビルマは確かに開発が遅れていると云えるだろう。

この国に工業を起し、農業生産を盛んにし、外貨獲得力を生み出すことが、必要不可欠な方向として避けられないならば、現政権の苦勞は大変なものがあると推察出来る。

ビルマが希求する近代国家への脱皮のために現在必要なものは、外貨であり、工業基盤の建設である。従って教育や、海外留学により人を創り、物を創る努力が真剣に進められており、伸びつつある国の若さを感じさせられる。

(三)ビルマの資源開発

ビルマは国内に豊かな資源を保有しているが、之が活用には多くの隘路のあることも事実である。一次産品の場合は、最近整備されつつあると雖も、未だ集荷に必要な輸送手段が不足している、其の上、地域当りの生産量が少いため、同種類を大量にまとめるためには困難も多い。此の事は増産指導や品質改良にも不便がある。従って大量の輸出には不向であり、大量の場合は各地の寄せ集めでロットを組まねばならないから品質のバラツキは避けられない。

ビルマを旅行すると広大な空地が目につくが灌漑や其の他の条件を克服すれば、大きな農業生産が可能であり、日本の様な小規模農業には真似られないメリットがある。

我々の訪緬中に、日本政府派遣の銅資源調査団が活動中であつた。此の種の地下資源も次々と開発されることと思れるが、之に要する開発や投資金は、ビルマの忙しい財袋から、まかなうことは困難が多いと思われる。

四ボームジョー鈴木大使

日本の特命全權大使、鈴木考閣下と面談する機会を得て、大使の抱負を承り、困難なビルマの前途に光明を見出したものである。ビルマ国民を肌で感じている為か大使に対する信頼感是非常に厚く、ビルマ救国の神話に登場するボームジョーに似せられている。

現在日本政府も、ビルマ援助の

為に色々と手を打っているが、特使に大使着任後は見るべきものがあり、之に協力するビルマの人達の意態も盛んであるから、年々急速に向上している様だ。

三年前にマンダレー市場で見た夜の商品は丁度、終戦直後の日本の夜店に似ていたものだが、今回歩いて見ると雲泥の差があり、其の発展速度の激しさを感じさせられた。

大使にビルマ豆類の輸入関税引下げに触れた時、「既に手は打ってあるが更に調査努力しよう」と打てば響く回答があり、イラワジ河に橋梁を懸ける計画や「銅資源を調査中だが、将来鉱山設備は日本が援助しなければならぬだろう」と胸の裏を話された。又民政安定の為に民需物資の急速な補填を計画し、緊急予算を獲得する等、ビルマ為政者と密着した効果ある援助を実行されて居り、我々が用意していた要望を遙かに超えた実行力を示され、ビルマ風情の我々には喜びを伝えることが出来なかつた。私は三年前に実現出来なかつた、繊維構造改革の余剰機械をビルマに贈与する計画を話したが、大使は「其計画が現在あるならば」と大変残念がっておられた。

之等一連の、ビルマの為に尽す心から発した施策は、ビルマを想う我々の考えと軌を一にするものであり、大使こそビルマ人の云うボームジョーであること、期待を大きくしたのは私だけではな

い。

(四)海外援助の必要性

現在東南アジア諸国は共通して、経済基盤の弱体と外貨不足の悩みを持っている。之を乗り越え前進する為にバランスのとれない経済を支えているが之が又発展の障害と建設速度のブレーキとなっている。

其の中でも第一段階を脱して上昇を初めた国も見られるが低迷している国が多い。

ビルマの場合は永い鎖国状態が続いたため、他国に比べ不利であることは事実だが、伝統の秀れた国民性や、豊かな食糧事情の為、援助効率の高い国であると思う。一方日本はドル過剰で、他国の買っ取られているが、政府当局としては誤解されているが、海外援助ならは、将来の為に是非断行したい処である。然しながら当局者が之を選択する時には幾多のルートを通らねばならないから困難も多い様であり、互の条件が揃っていても実現までには相当な時間と労力が費される。緊急に海外援助が必要なる国と、緊急に海外援助が必要なる国の間を往復すれば、何か良い手段はないものかと、考えたくなるのは私だけではないと思う。

幸い鈴木大使も在任中である、今こそビルマ発展の速度を速める絶好のチャンスであることは間違いない。

(六)新しい輸出品目

ビルマの産物の中で輸出有望商品でありながら、停滞しているものが多い。

有名なヒスイ、ルビー、サファ



イアー、は勿論であるが其の他に真珠も生産されている。之等はヤミルートから流れたものがタイ国で花形商品として活躍している。本家のビルマでは加工技術やデザインが感心しないので、見た目が低品質に見えるため割高感がある。今少し改良を加えるならば、有利に更に多くの外貨獲得が可能である。

銀製品は特産品として有名であるが、其の作品が外国市場に向かない容器類であるため、其の工芸の美には魅力を感じても、購買意欲は起り難いが、輸出市場の適合品種に転換して、其の上に工芸技術を加えれば、甚だ有望なものとなる。

チーク材は輸出が盛んであるが、之等を加工した家具類の輸出は少い様だが、他国では見られないユニークな手工業の味が生きていて、先進諸国の量産家具とは比較出来ない良さがあつた。特に、すかし彫り、の技術は最高で、此の技術の配分を考えれば、高級家具として伸びる可能性は大きい。又特産品のウルシは、小道具の分野からインテリア部門に進出しつつあり、東洋の神秘を表現した作品は、目を展覧させるものがある。我々一行も、バガンのホテルロビーで見た側壁のデコレーションには、飽きず眺め入つたものである。

之等の技術は工芸品の小物に発したものが塗り、木製コーヒークップや花瓶、盆、額、組合せの器等、黄金と黒塗りの配色には伝

統の美が生きていて我々を魅了する。之等も日本人から見れば、裝飾用置物としての価値以外に用途が浮かばない。生活用品としての分野に進出出来れば有望な輸出商品であることは間違いない。価格も日本で作る場に近い。

木彫りの彫刻や竹細工も伝統の技術が生きていて楽しいものであるが之等の技術を誘導すれば輸出有望商品を生み出すことは容易であらう。

貝細工は最近日本では高価となり、あまり見られなくなつたが、ビルマでは盛んで、技術職人の層も厚い。此の商品も小物から脱却して、中国で昔から生産されている様な家具分野に進出すれば、ウルシ同様高級品として輸出は可能である。

木製の象嵌画も珍らしい技術であり、壁額の分野を脱した利用を考えれば巧緻な技術と、ユニークな味が需要を呼ぶこととなる。此の他に未だ輸出ルートが細い農産物に雑穀があるが、現在世界的に不足しつつある飼糧の分野でもあるから、品質改良の確立が出来れば、増産、品質改良を援助しつつ大きな輸出品目に育成することは可能であらう。

あることは、甚だ喜ばしい限りである。現在の協会メンバーは、在日留學生に対する精神的援助や、小規模ながらビルマに必要な物資の贈与を行っているが、之等は精神的な親善行為として、ビルマ側からも高く評価されている。

今回の訪緬親善団は、ビルマ各地の人々に友好ムードを盛りあげ、日本から慰問団以外の目的で入国した初めての団体として親善を果したことは誠に意義あることであつたが、反面、今一步前進すべきではないかと、考えさせられたことも事実である。

其の原因は、日本に住む我々の目から見た、ビルマの経済事情に在るのではないかと思う。ビルマの友人達は、我々日本人を東洋の兄貴分として尊敬を抱いていて、ビルマ発展の為に力を貸してくれてあつたらうと期待している様に思える。戦時中に変な迷惑をかけた我々日本人は、今こそ彼等に報いることを考えなければ済まないと思う。

私は此の訪緬団の発想時、此の事だけを考へ続けてきたものであるが、残念ながら個人的な調査に止まつた。私は今回の旅行で、

①ビルマに必要なものは何か  
②我々に出来る協力は何か  
を知ることであつた。

現在のビルマに最も必要なものは大量で多様な経済援助であるが、微力な我々では如何にも出来ないから、国家の力を借りるより他に道はない。此の分野では、鈴

木大使の活躍があり、実績も上りつつあるので、我々は政府に対して、大使が動き易い様に働きかけることが唯一の協力方法であらう。

日本政府としても、ビルマだけではなく、多くの発展途上国を抱えており、予算の振切りは難かしい点も多いから順番を待っている様では、心の入つた援助とは云えないと思う。積極的に政府関係者に我々の運動を認識させたり、我々の親しい政界官界の人達とビルマの人達を接触させることも必要と思われる。之等の積重ねが将来ビルマの為に良い結果を招来することとなり、文化協会の目的も大きく達成することになるのではないであらうか。

第二は手近かに取り掛れる方法として、新しい輸出品目の開拓がある。

之は最初から大量が期待出来ないから、少量でスタートを起し、走行中、輸出条件の整備改善に努力し遂次上昇を計る必要がある。今回ビルマ輸出公団を訪れ、彼等の輸出用カタログを受取つたが、掲載品目は全て国内市場向けの形態其の儘であり、輸出市場が求めるであらう、市場適合性は少い様に感じた。彼等は東京の通商代表部から連絡を受けていて、積極的に協力する姿勢であり、国家の必要とする外貨を得る為には、ダンピングも辞さないくらい、輸出意欲は甚だ旺盛である。ビルマの置かれては外貨不足の現状は、それほど切迫しているのでは

り、我々が親善団体であることも彼等も良く承知して、其の協力を待っていたのである。

一例は、遅れている工業分野の製品でも可能な限り輸出を考えている様で、現在日本やアメリカで不足している自転車用チェーンはビルマの生産コスト呟当り20セントであるが、輸出マーケット価格は7〜8セントである。それでも彼等は私に買つてくれと云つていた。政治的要求があり、国営企業であるから此の様な大きな価格差が輸出の妨げにならないのであらう。

現在日本で不足している肥料用骨粉に就いて打診して見たところ、大変関心を示していた。世界的に品不足で価格も高騰している品目であり、近々輸出有望商品に育つことと思う。又ビルマ特産の竹はイラワジデルタ地域に密生している、輸送も河川が利用出来るから直ちに外貨に代り得るものである。早速アメリカ向に繋いで置いたから近々輸出が初るであらう。然しながら之等はビルマ側の態勢が整い数量が伸びたとしても金額的には微々たるものである。

最近日本政府はビルマからモチ米を緊急輸入する計画を立てているが、原因は従来の輸入先が品不足のためである。もつと早くかたならばビルマにもたらした利益は馬鹿にならない金額になつていと思われれる。

其の意味では少額であらうと積極的に開発して一日も早く輸出に



結びつけることが、ビルマの外貨事情好転に大いに役立つものと思

日本ビルマ文化協会には多種多様の業種にたづねる有力な会員が多数あり、之等の人達が、それぞれ

協会が此の方向に会員を誘導し、力を結集する様育てあげれば外貨不足に悩むビルマに貢献する

感想文

酒井栄一郎夫人

年に一度寄り会う戦友会には、去年も今年も苦勞話はさることな

万博を機会に、この心にパッと花が咲き、第二の故郷ビルマへ

ことになりましたが、さそいを受けた当初は、体にも自身がなく、

それがビルマに着いたとたん、ああ！ 此処に来て良かったと感じたことは、古くは十五年十年、

私は、今工業部門担当の役人になり、必要な機械の注文を、ビ

主人は、個人旅行、政府招待、今回、と三度の訪問ですが、この

国が初めての親善観光団として迎えられる。このイメージを傷つけぬよう、

純粋な気持ちで、協会の仕事を継承される若い人の、早くあらわれんことを、

二月末日現在にて会員数五六一名でその内訳は、京都府八二、大

編集後記

バッチ代五〇〇円、年度会費三六〇〇円未納の方は誠に

日本の誇る世界のクッション

ウエビング

富国株式会社

東京日本橋小伝馬町 662-1901(代)

滋賀ビル 協会員 甲谷秀太郎

「日緬親善パーティー開催」

昭和四十八年五月二十六日

(土)午後一時〜三時

東京目黒 八芳園に於て

当協会関東支部主催にて開

催予定 参加歓迎 会費要

バッチ代五〇〇円、年度会費

三六〇〇円未納の方は誠に

手数乍らご送金下さい

(会計係)

新刊書紹介

「ビルマの社会と経済」

大野 徹著 五〇〇円

購買お申込を直接左記へ

発売所 アジア経済研究所

(東京都新宿区市ケ谷

本村町四二)

御菓子司

柚餅・京観世

鶴屋吉信

協会員 稲田栄三

京都・今出川堀川西 0755-441-0105(代)

迎賓閣

(細川別邸)

名園と大名料理をお楽しみ下さい。

御来京の折は気軽にお立ち寄り下さい。又万博時ビルマ政府代表宿舎としてご用命を賜りました。

京都市左京区南禅寺下河原町34

電話 (075) 771-2634

761-7063

協会員 内田 健